



安全データシート (SDS)

1. 化学品及び会社情報

昭和化学株式会社
東京都中央区日本橋本町4-3-8
担当
TEL(03)3270-2701
FAX(03)3270-2720
緊急連絡 同上
改訂日 2024/07/03
SDS整理番号 13744250

製品等のコード : 1374-4250、1374-4380

製品等の名称 : モルホリン

推奨用途 : 試薬

参考：その他の用途(当該製品規格に限定されない一般的な用途。規格により用途は相違。)
ゴム薬品、染料、レジン、ワックス、セラックなどの工業薬品の溶剤、
ポリッシュ(車両、床、皮革)、化粧クリーム、シャンプー、紙コーティング、
塗料、殺虫剤、除草剤などの乳化剤、工作機械の潤滑油、冷却剤、防錆剤、
殺菌剤、繊維仕上剤、ポリエーテルウレタンフォーム触媒、塩素化溶剤の安定剤、
フェノールやその他酸の抽出剤など

使用上の制限 : 推奨用途以外の用途へ使用する場合は化学物質専門家等の判断を仰ぐこと



2. 危険有害性の要約

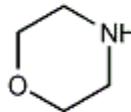
GHS分類

物理化学的危険性
引火性液体 : 区分3
自然発火性液体 : 区分に該当しない
自己発熱性化学品 : 区分に該当しない
健康に対する有害性
急性毒性(経口) : 区分4
急性毒性(経皮) : 区分3
急性毒性(吸入:蒸気) : 区分3
皮膚腐食性/刺激性 : 区分1
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性 : 区分2A
生殖細胞変異原性 : 区分2
特定標的臓器毒性(単回ばく露) : 区分1(呼吸器系)
特定標的臓器毒性(反復ばく露) : 区分1(呼吸器系)
環境に対する有害性
水生環境有害性(短期(急性)) : 区分3
水生環境有害性(長期(慢性)) : 区分3

注意喚起語: 危険

危険有害性情報

引火性の高い液体及び蒸気
飲み込むと有害(経口)
皮膚に接触すると有毒(経皮)
吸入すると有毒(蒸気)
重篤な皮膚の薬傷・眼の損傷
強い眼刺激



遺伝性疾患のおそれの疑い
 呼吸器系の障害
 長期又は反復ばく露による呼吸器系の障害
 水生生物に有害
 長期的影響により水生生物に有害

注意書き

【安全対策】

全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。
 熱、高温のもの、火花、裸火及び他の着火源から遠ざけること。禁煙。
 容器を密閉しておくこと。
 容器を接地すること、アースをとること。
 防爆型の電気機器、換気装置、照明機器などを使用すること。
 火花を発生させない工具を使用すること。
 静電気放電に対する予防措置を講ずること。
 ミスト、蒸気などを吸入しないこと。
 取扱い後は、よく手を洗うこと。
 この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。
 屋外又は換気の良い場所でのみ使用すること。
 保護手袋、保護衣、保護眼鏡、保護面を着用すること。
 環境への放出を避けること。

【応急措置】

飲み込んだ場合：口をすすぐこと。無理に吐かせない。気分が悪い時は医師に連絡すること。
 吸入した場合：空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させる。医師に連絡する。
 皮膚（又は髪）に付着した場合：直ちに汚染された衣類を全て脱ぐこと、取り除くこと。
 皮膚を流水又はシャワーで洗うこと。直ちに医師に連絡すること。
 眼に入った場合：水で15分以上注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
 ばく露又はばく露の懸念がある場合：医師に連絡すること。
 気分が悪い時は、医師に連絡すること。
 眼の刺激が続く場合：医師の診察、手当を受けること。
 汚染された衣類を直ちに全て脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。

【保管】

湿気、日光を避け、容器を密閉し換気の良い冷暗所に施錠して保管すること。

【廃棄】

内容物や容器を、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に委託処理する。

(注) 物理化学的危険性、健康に対する有害性、環境に対する有害性に関し、上記以外の項目は、現時点で「区分に該当しない(分類対象外も該当)」又は「分類できない」である。

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別	:	化学物質
化学名	:	モルホリン (別名) テトラヒドロパラオキサジン、 テトラヒドロ-2H-1,4-オキサジン、 テトラヒドロ-1,4-オキサジン、ジエチレンオキシミド (英名) Morpholine (EC名称、TSCA名称)、 Tetrahydroparaoxazine、 Tetrahydro-2H-1,4-oxazine、Tetrahydro-1,4-oxazine、 Diethylene oximide
成分及び含有量	:	モルホリン、 99.0%以上
化学式、構造式	:	C4H9NO、 O(C2H4)2NH、 構造式は上図参照(1ページ目)。
分子量	:	87.12
官報公示整理番号	:	(5)-859
化審法	:	8-(7)-425
安衛法	:	
CAS No.	:	110-91-8
EC No.	:	203-815-1
危険有害成分	:	モルホリン

4. 応急措置

吸入した場合	:	直ちに医師に連絡する。 直ちに、被災者を新鮮な空気のある場所に移す。 被災者を毛布等でおおって体を保温し、呼吸しやすい姿勢で安静にする。 気分が悪い時は、医師の診察、手当を受ける。
皮膚に付着した場合	:	直ちに医師に連絡する。 直ちに、汚染された衣類をすべて脱ぐ。 速やかに皮膚を多量の水と石鹸で洗う。 汚染された衣類を再使用する前に洗濯する。

- 目に入った場合 : 直ちに、水で15分以上注意深く洗う。その際、顔を横に向けてからゆっくり水を流す。水道の場合、弱い流れの水で洗う。勢いの強い水で洗浄すると、かえって目に障害を起こすことがあるので注意する。まぶたを親指と人さし指で広げ眼を全方向に動かし、眼球、まぶたの隅々まで水がよく行き渡るように洗浄する。次に、コンタクトレンズを着用していて固着していなければ除去し、洗浄を続ける。
- 飲み込んだ場合 : 眼の刺激が持続する場合は、医師の診断、治療を受ける。
口をすすぎ、うがいをする。無理に吐かせてはいけない。吐かせると再びのどや食道を通り二重に刺激・損傷を受けることになる。直に牛乳や卵を飲ませて毒性を希釈する。牛乳、卵がない時は、コップ数杯の水を飲ませ、体内で毒性を薄める。意識がない時は、何も与えない。もし、嘔吐が自然に生じた時は、気管への吸入が起きないように、頭を尻より下に身体を傾斜させ、肺への還流を防ぐ。嘔吐後、意識が戻れば、水を飲ませる。体の保温に努め、速やかに医師の診察を受ける。気分が悪い時は、医師の診断、治療を受ける。
- 予想される急性症状及び発症性症状 :
吸入 : 灼熱感、咳、息苦しさ、息切れ症状は遅れて現われることがある。
皮膚 : 発赤、痛み、水疱、皮膚熱傷。経皮吸収性がある。
眼 : 発赤、痛み、かすみ眼、重度の熱傷
経口摂取 : 腹痛、灼熱感、咳、下痢、吐き気、ショックまたは虚脱、嘔吐
- 応急措置をする者の保護 : 救助者は、状況に応じて適切な保護具を着用する。
医師に対する特別な注意事項 : 肺水腫の症状は2~3時間経過するまで現われない場合が多く、安静を保たないと悪化する。したがって、安静と経過観察が不可欠である。

5. 火災時の措置

- 適切な消火剤 : 本製品は可燃性、引火性であり、非常に燃焼しやすい。粉末、二酸化炭素、泡（耐アルコール泡）、水噴霧
大火災の場合、空気を遮断できる泡消火剤が有効である。
- 使ってはならない消火剤 : 棒状放水（本品があふれ出て、火災を拡大するおそれがあるため）
特有の危険有害性 : 引火性が高い。
非常に燃え易いので、熱、火花、火災で容易に発火する。
引火点(38)以上では蒸気/空気の爆発性混合気体を生じることがある。
本製品の蒸気は空気より重く、地面あるいは床に沿って移動することがあり、屋内、屋外、下水溝などでの遠距離引火の可能性がある。
加熱により容器が爆発するおそれがある。
火災によって刺激性又は毒性のガスを発生するおそれがある。
- 特有の消火方法 : 火元への燃焼源を遮断する。
火災周辺の設備、可燃物に散水し、火災延焼を防ぐ。
危険でなければ火災区域から容器を移動する。
移動不可能な場合、容器及び周囲に散水して冷却する。
消火後も、大量の水を用いて十分に容器を冷却する。
火災発生場所の周辺に関係者以外の立入りを禁止する。
- 消火を行う者の保護 : 消火作業の際は風上から行い、空気呼吸器、化学用保護衣を着用する。

6. 漏出時の措置

- 人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置 : 漏洩区域は、関係者以外の立入りを禁止する。
漏洩エリア内に立入る時は、保護具を着用する。
風上から作業し、ミスト、蒸気、ガスなどを吸入しない。
蒸気が多量に発生する場合は、水噴霧し蒸気発生を抑える。
密閉された場所に立入る時は、事前に換気する。
- 環境に対する注意事項 : 河川、下水道、土壌に排出されないように注意する。
回収、中和 : 乾燥土、砂や不燃材料で吸収し、密閉できる空容器に回収する。後で廃棄処理する。
大量の場合、盛土で囲って流出を防止し、安全な場所に導いて密閉できる空容器に回収する。
大量の場合、散水は、蒸気濃度を低下させる。しかし、密閉された場所では燃焼を抑えることが出来ないおそれがある。
- 封じ込め及び浄化の方法・機材 : 危険でなければ漏れを止める。
漏洩エリア内で稼働させる設備・機器類は接地する。
蒸気抑制泡は蒸気濃度を低下させるために用いる。
- 二次災害の防止策 : 事故の拡大防止を図るため、必要に応じて関係機関に通報する。
周辺の発火源を速やかに取除く。
排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い	
技術的対策	<ul style="list-style-type: none"> ： 裸火禁止、火花禁止、禁煙。強力な酸化剤との接触禁止。 引火点(38)以上で使用する場合は、工程の密閉化および防爆型換気装置を使用する。 ミスト、蒸気、ガスの発生を防止する。 指定数量以上の量を取扱う場合、法で定められた基準に満足する製造所、貯蔵所、取扱所で行なう。 指定数量以上の危険物を貯蔵し、取り扱う場合は消防法に基づく許可が必要で、危険物貯蔵所に保管する。 指定数量の1/5以上、1未満(少量危険物)の場合も、少量危険物貯蔵所に保管し、法の規制を受け、最寄の消防署に届出を行う必要がある。 指定数量の1/5未満の危険物の貯蔵・取り扱いについては届出の必要はない。 炎、火花または高温体との接触を避ける。 静電気対策を行い、作業衣、靴等も導電性の物を用いる。
局所排気・全体換気	<ul style="list-style-type: none"> ： 本製品を取扱う場合、必ず保護具を着用する。 防爆型の換気装置を設置し、局所排気又は全体換気を行なう。 蒸気は空気より重く、床に沿って移動することから、床面に沿って換気する。
安全取扱い注意事項	<ul style="list-style-type: none"> ： すべての安全注意を読み理解するまで取扱わない。 周辺での高温物、スパーク、火気の使用を禁止する。 容器を転倒させ、落下させ、衝撃を加え、又は引きずるなどの取扱いをしてはならない。 この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしない。 取扱い後はよく手を洗う。 ミスト、蒸気、スプレーを吸入しない。 眼に入れない。 接触、吸入又は飲み込まない。
接触回避	<ul style="list-style-type: none"> ： 炎、火花または高温体との接触を避ける。
保管	
技術的対策	<ul style="list-style-type: none"> ： 保管場所は壁、柱、床等を耐火構造とする。 保管場所は屋根を不燃材料で作るとともに、金属板その他の軽量な不燃材料でふき、かつ天井を設けない。 保管場所の床は、危険物が浸透しない構造とするとともに、適切な傾斜をつけ、かつ、適切なためますを設ける。 保管場所で使用する電気器具は防爆構造とし、器具類は接地する。
保管条件	<ul style="list-style-type: none"> ： 光のばく露や高温多湿を避けて保管する。 容器は遮光する。 容器を密閉して換気の良い冷暗所に保管する。 一定の場所を定めて、施錠して保管する。 貯蔵する所には、「火気厳禁」の表示を行う。 貯蔵する所には、白地に赤枠、赤文字で「医薬用外劇物」の表示を行う。 混触危険物質、食料、飼料から離して保管する。
混触危険物質	<ul style="list-style-type: none"> ： 強酸化剤、強酸
容器包装材料	<ul style="list-style-type: none"> ： ガラスなど。 アクリル樹脂など多くのプラスチック、ゴムを侵す。 銅、亜鉛容器に貯蔵すると容器を腐食する。

8. ばく露防止及び保護措置

管理濃度	： 設定されていない。
許容濃度(ばく露限界値、生物学的ばく露指標)：	
日本産業衛生学会	： 設定されていない。
ACGIH	： TLV-TWA 20ppm 皮膚吸収あり。
設備対策	<ul style="list-style-type: none"> ： 防爆の電気・照明機器を使用する。 作業場には防ばく型の換気装置を設置し局所排気又は全体換気を行なう。 静電気放電に対する予防措置を講ずる(アース等の使用)。 この物質を貯蔵ないし取扱う作業場には洗眼器と安全シャワーを設置する。
保護具	
呼吸器の保護具	<ul style="list-style-type: none"> ： 呼吸器保護具(有機ガス用防毒マスク)を着用する。 必要に応じて、送気マスク、空気呼吸器、又は酸素呼吸器を着用する。
手の保護具	： 保護手袋(ネオプレン製など)を着用する。
眼の保護具	： 眼の保護具(保護眼鏡、側板付き保護眼鏡)を着用する。
皮膚及び身体の保護具	<ul style="list-style-type: none"> ： 長袖作業衣を着用する。 必要に応じて顔面用の保護具、保護長靴を着用する。
衛生対策	<ul style="list-style-type: none"> ： この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしない。 取扱い後はよく手を洗う。

9. 物理的及び化学的性質

物理状態	: 液体。吸湿性あり
性状	: 無色～淡黄色
色	: 特異臭(アミン臭)
臭い	: 9.4(0.01%水溶液)、 11.2(10%水溶液)
pH	: -5
融点	: データなし
凝固点	: 129
沸点	: 38 (密閉式)
引火点	: 引火性
可燃性	: 下限 1.4vol% 上限 11.2vol%
爆発範囲	: 1.06 kPa(20)
蒸気圧	: 3.0
相対ガス密度(空気 = 1)	: データなし
密度又は相対密度	: 0.998～1.005 (20/20)
比重	: 水に混和しやすい。
溶解度	: エタノール、アセトン、オクタン、トルエンに混和する。
オクタノール/水分配係数	: log Pow = -0.86
発火点	: 310
分解温度	: データなし
粘度	: 2.23mPa・s (20)
動粘度	: データなし
粒子特性	: データなし
GHS分類	
引火性液体	: 本品の引火点は38 (密閉式)、かつ沸点は129 であることから区分3とした。
自然発火性液体	: 引火性の高い液体及び蒸気(区分3)
自己発熱性化学品	: 常温の空気と接触しても自然発火しない(発火点255 (ホンメル(1991) Card No.139)) ことから、区分に該当しないとした。
	: データはないが、国連危険物輸送勧告がクラス8、副次危険3に分類されている(国連番号2054)ことから、区分に該当しないとした。

10. 安定性及び反応性

安定性(反応性・化学的安定性)	: 通常の取扱条件において安定である。 光により変質する。 吸湿性がある。
危険有害反応可能性	: 鋼、ステンレス鋼は容器として耐久性がある。 中程度の強塩基であり、強酸と混触すると発熱を伴い反応する。 強酸化剤(過塩素酸Na、過酸化水素、硝酸NH4、硝酸Na等)と混触すると激しく反応し、火災の危険性をもたらす。 銅、亜鉛容器に貯蔵すると容器を腐食する。 プラスチック、ゴム、被膜剤を侵す。 35 以上では、蒸気/空気の爆発性混合気体を生じることがある。
避けるべき条件	: 熱、日光、光、湿気、裸火、スパーク、静電気
混触危険物質	: 強酸化剤、強酸
危険有害な分解生成物	: 一酸化炭素、二酸化炭素、窒素酸化物

11. 有害性情報

急性毒性	: 経口 ラット LD50 = 1287mg/kg 飲み込むと有害 (経口)(区分4) 経皮 ウサギ LD50 = 386.4mg/kg 皮膚に接触すると有毒 (経皮)(区分3) 吸入(蒸気) ラット LC50(4時間) = 7.8mg/L(換算値: 2192ppm) 吸入すると有毒 (蒸気)(区分3) 吸入(ミスト)分類できない。
皮膚腐食性/刺激性	: ウサギへの皮膚適用により、強度の壊死、薬傷および炎症が認められ、腐食性がある(EHC 179, 1996, PATTY 4th, 1994, IARC 47,1989, ACGIH 7th, 2001)との記述から、区分1とした。 重篤な皮膚の薬傷・眼の損傷 (区分1)
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性	: ウサギの眼に適用すると粘膜の浮腫、角膜混濁、ぶどう腫が認められた(EHC 179, 1996)との記述、1～40%に希釈した液を点眼すると強度の刺激性が認められた(EHC 179, 1996, IARC 47, 1989, PATTY 4th, 1994)との記述、およびヒトで液体の本物質は眼の角膜に浮腫を

- 起こし(IARC 47, 1989)、強度の刺激性がある(ACGIH 7th, 2001, IARC 47, 1989, PATTY 4th, 1994)との記述から、区分2Aとした。
強い眼刺激 (区分2A)
- 呼吸器感作性 : 分類できない。
皮膚感作性 : 分類できない。
生殖細胞変異原性 : ラットを用いた優性致死試験では陰性である(PATTY 4th, 1994)が、ラットおよびモルモットの骨髄細胞を用いた染色体異常試験において陽性であり(EHC 179, 1996)、生殖細胞を用いたin vivo遺伝毒性試験のデータがないことから、区分2とした。
遺伝性疾患のおそれの疑い (区分2)
- 発がん性 : 区分に該当しない。
IARC(IARC 71, 1999)ではグループ3、ACGIH(ACGIH 7th, 2001)ではA4に分類されている。
- 生殖毒性 : 分類できない。
ラットでの104週間の吸入暴露試験では雌雄の生殖器官には影響なかったとの記述、本物質のオレイン酸塩をマウスに96週間飲水投与した試験でも雌雄の生殖器官には影響がなかったとの記述、および本物質のオレイン酸塩を妊娠ラットの胎児器官形成期に経口投与した試験で、母獣に臨床症状が発現する用量でも胎児に影響はなかったとの記述(いずれも環境省リスク評価書第4巻, 2005)はあるが、生殖毒性を明確に否定する記述がない。
- 特定標的臓器毒性 (単回ばく露) : ラットでの蒸気の吸入暴露試験で呼吸数の増加、肺刺激性が認められた(PATTY 4th, 1994)との記述およびヒトにおいて、吸入すると灼熱感、咳、息苦しさ、息切れが現れ、肺水腫を起こす(環境省リスク評価第4巻(2005))との記述から、区分1(呼吸器系)とした。
呼吸器系の障害(区分1)
- 特定標的臓器毒性 (反復ばく露) : ラットでの13週間および104週間の反復吸入暴露試験において、鼻腔などの呼吸器に細胞壊死、びらん、扁平上皮化生の増加などの組織傷害が認められた(環境省リスク評価第4巻, 2005, EHC 179, 1996, ACGIH 7th, 2001, PATTY 4th, 1994, IARC 47, 1989)との記述、およびヒトでの職業的な吸入暴露により気道刺激性がみられる(環境省リスク評価第4巻, 2005, ACGIH 7th, 2001, IARC 47, 1989)との記述から、区分1(呼吸器系)とした。
長期又は反復ばく露による呼吸器系の障害(区分1)
- 誤えん有害性 : 分類できない。

12. 環境影響情報

- 生態毒性
水生環境有害性 短期(急性) : 藻類(セテナストラム)96時間ErC50=28mg/L(EHC179, 1996)
水生生物に有害(区分3)
水生環境有害性 長期(慢性) : 急性毒性が区分3、生物蓄積性が低いものの(BCF=0.65(既存化学物質安全性点検データ))、急速分解性がない(BODによる分解度:0%(既存化学物質安全性点検データ))ことから、区分3とした。
長期的影響により水生生物に有害(区分3)
- 残留性・分解性 : 難分解性。BOD分解度=0%
生物蓄積性 : 低濃縮性。BCF=0.65
土壌中の移動性 : データなし
オゾン層への有害性 : 本品はモントリオール議定書の附属書にリストアップされていないため、分類できないとした。

13. 廃棄上の注意

- 残余廃棄物 : 関連法規ならびに地方自治体の基準に従って廃棄する。
都道府県知事などの許可(収集運搬業許可、処分業許可)を受けた産業廃棄物処理業者に、産業廃棄物管理票(マニフェスト)を交付して廃棄物処理を委託する。
廃棄物の処理にあたっては、処理業者等に危険性、有害性を充分告知の上処理を委託する。
必要に応じて、廃棄の前に可能な限り無害化、安定化及び中和等の処理を行って危険有害性のレベルを低い状態にする。
本製品を含む廃液及び洗浄排水を直接河川等に排出したり、そのまま埋め立てたり投棄することは避ける。
(参考) 燃焼法
可燃性の溶剤等と共に噴霧するか、又はケイソウ土、木粉(おが屑)等に吸収させて、アフターバーナ及びスクラバ付き焼却炉の火室で焼却する。
- 汚染容器及び包装 : 内容物により汚染された容器及び包装材は、関連法規の基準に従って適切に処分する。

空容器を廃棄する場合は、内容物を除去した後、産業廃棄物処理業者に処理を委託する。

14. 輸送上の注意

緊急時応急処置指針番号: 132

国際規制

海上規制情報 (IMO/IMDGコードの規定に従う)

UN No. : 2054
 Proper Shipping Name : MORPHOLINE
 Class : 8 (腐食性物質)
 Sub risk : 3 (引火性液体)
 Packing Group : I
 Marine Pollutant : No (非該当)
 Limited Quantity : -

航空規制情報 (ICAO-TI/IATA-DGRの規定に従う)

UN No. : 2054
 Proper Shipping Name : Morpholine
 Class : 8
 Sub risk : 3
 Packing Group : I

国内規制

陸上規制情報 (毒劇法、消防法、道路法の規定に従う)

海上規制情報 (船舶安全法/危険物船舶輸送及び貯蔵規則/船舶による危険物の運送基準等を定める告示に従う)

国連番号 : 2054
 品名 : モルホリン
 クラス : 8
 副次危険 : 3
 容器等級 : I
 海洋汚染物質 : 非該当
 MARPOL73/78付属書II及びIBCコードによるばら積み輸送の有害液体物質の汚染分類 : Y (モルホリン)

少量危険物許容量 : -

航空規制情報 (航空法/航空法施行規則/航空機による爆発物等の輸送基準を定める告示に従う)

国連番号 : 2054
 品名 : モルホリン
 クラス : 8
 副次危険 : 3
 等級 : I

少量輸送許容物件 : -

特別の安全対策

危険物は当該危険物が転落し、又は危険物を収納した運搬容器が落下し、転倒もしくは破損しないように積載する。危険物又は危険物を収納した容器が著しく摩擦又は動揺を起こさないように運搬する。災害を防止するための応急措置を講ずると共に、もよりの消防機関その他の関係機関に通報する。輸送に際しては、直射日光を避け、容器の破損、腐食、漏れのないように積み込み、荷崩れの防止を確実にを行う。食品や飼料と一緒に輸送してはならない。重量物を上積みしない。車輛等による運搬の際にはイエローカードを運搬人に保持させる。

15. 適用法令

労働安全衛生法

: 名称等を表示すべき危険物及び有害物 (政令番号 第604号「モルホリン」、対象重量%は 1)
 名称等を通知すべき危険物及び有害物 (政令番号 第604号「モルホリン」、対象重量%は 1)
 (令別表第9)
 (注) 令和7年4月1日以降、政令番号: 規則別表第2の第2207号に変更

危険物・引火性の物 (施行令別表第1第4号)
 皮膚等障害化学物質等及び特別規則に基づく不浸透性の保護具等の使用義務物質「皮膚刺激性有害物質、皮膚吸収性有害物質」
 「モルホリン、対象重量%は 1」
 (安衛則第594条の2)

化審法	： 優先評価化学物質 No.81 (官報公示日：2011/04/01) 評価対象：人健康影響
化学物質排出把握管理促進法 (PRTR法)	： 旧第2種監視化学物質 No.1005 (官報公示日：2010/03/19) ： R5年3月31日まで ・分類 「第1種指定化学物質」 ・政令番号 「1-455」〔ただし、「1-」に変更〕 ・管理番号 「455」 ・政令名称 「モルホリン」 R5年4月1日からPRTR法の対象物質から除外
消防法	： 危険物第4類引火性液体、第二石油類 水溶性液体 指定数量2000L、危険等級 (法第2条第7項危険物別表第1)
毒物及び劇物取締法	： 劇物「モルホリン及びこれを含有する製剤」、包装等級
船舶安全法	： 腐食性物質(危規則第2, 3条危険物告示別表第1)
航空法	： 腐食性物質(施行規則第194条危険物告示別表第1)
大気汚染防止法	： 有害大気汚染物質に該当する可能性がある物質(中環審第9次答申の244) 「モルホリン」
海洋汚染防止法	： 有害液体物質、Y類物質「モルホリン」(施行令別表第1)
輸出入貿易管理令	： キャッチオール規制(別表第1の16項) HSコード：2934.99 第29類 有機化学品 ・輸出統計番号(2024年1月版)：2934.99-000 「核酸及びその塩(化学的に単一であるかないかを問わない。)並びにその他の複素環式化合物 - その他のもの：その他のもの」 ・輸入統計番号(2024年4月1日版)：2934.99-099 「核酸及びその塩(化学的に単一であるかないかを問わない。)並びにその他の複素環式化合物 - その他のもの：その他のもの - 2 その他のもの - その他のもの」

16. その他の情報

(注) 本品を試験研究用以外には使用しないで下さい。

取扱注意事項：

本製品の取扱いは毒物劇物取締法の規定に従い、購入、保管、使用及び廃棄には細心の注意を払うこと。毒物劇物取扱等の責任者は、必要に応じ取扱う者に対し労働安全衛生、漏洩防止、緊急時の対応、環境影響、使用記録、保管庫施錠、紛失盗難防止などについて教育、訓練を実施し、事故の予防に努めること。

参考文献：

化学物質管理促進法PRTR・MSDS対象物質全データ	化学工業日報社
労働安全衛生法MSDS対象物質全データ	化学工業日報社(2007)
化学物質の危険・有害便覧	中央労働災害防止協会編
化学大辞典	共同出版
安衛法化学物質	化学工業日報社
産業中毒便覧(増補版)	医歯薬出版
化学物質安全性データブック	オーム社
公害と毒・危険物(総論編、無機編、有機編)	三共出版
化学物質の危険・有害性便覧	労働省安全衛生部監修
Registry of Toxic Effects of Chemical Substances NIOSH CD-ROM	
GHS分類結果データベース	nite(独立行政法人 製品評価技術基盤機構) HP
GHSモデルMSDS情報	中央労働災害防止協会 安全衛生情報センター HP

このデータは作成の時点における知見によるものですが、必ずしも十分ではありませんし、何ら保証をなすものではありませんので、取扱いには十分注意して下さい。なお、この安全データシート(SDS)はJIS Z 7253:2019に準じ作成しています。